

- ⑥子育てはむしろ保育施設を利用したい
($r=0.05$)
- ⑦日本が好き ($r=0.04$)
- ⑧結婚しても子供がいなくても可 ($r=-0.01$)
- ⑨結婚は個人の自由でしなくても可
($r=-0.06$)
- ⑩未婚の子供がいても可 ($r=-0.07$)
- ⑪夫婦別姓も可 ($r=-0.07$)
- ⑫育児は女性の負担が大 ($r=-0.10$)

以上、①結婚を早い時期にしたいと②日本の未来は明るいとの2項目のみが有意な正の相関があった。

IV 結語

1. 「家事の負担軽減」と「教育費を減らす」

結婚においては「家事の負担」が、育児においては「教育費の負担」が大きな障害になっている。

このため、乳幼児を抱える家庭においては家事支援の専門ヘルパーなどの提供策も考えられる。また、教育費の逡減のための施策拡充が期待される。

2. 結婚し易い環境を

早婚を希望する者ほど希望する子供の数が多

い。このため、20代夫婦など早婚でも困らないような経済的、居住的施策が望まれる。

むしろ、早婚者枠など優先的に公営住宅を貸与すべきことも一案と考える。

3. 共同体との関係

統計的差はなかったが、「北海道が好き（愛郷心）」と「日本が好き（愛国心）」が強い者ほど、希望する子供の数が多いとの正の相関がみられた。

昔の育児は、大家族、地域など共同体が大きく関与していた。そのために、育児の不安、悩みが母親のみに集中せずに分散していたと考えられる。こうした共同体との関係希薄化が育児の負担増に繋がると考えられる。

4. 悲観論との関係

加えて、『日本の未来は明るいかな』の問いに対しては、「やや悲観的（どちらかといえばそうは思わない）」と捉えている者が最多（50.3%）であった。「やや悲観的」と「悲観的」を合わせると77.0%となっている。

最近の不況、犯罪の増加など暗い世相が反映されていると考えるが、悲観論が多いことが、少子化の一因になっていることが示唆された。

専門部から

「禁煙指導・禁煙相談」実施医療機関の ホームページへの登録・公表について

◇健康教育事業部◇

北海道医師会では、道民の健康づくりの一環として禁煙対策に取り組んでおります。

そのひとつに、当会ホームページ (<http://www.hokkaido.med.or.jp/kikan/kinen.html>) にて「禁煙指導・禁煙相談」実施医療機関一覧を公開しております。

今後もお申し出をいただき、登録医療機関数を増やしていきたいと考えておりますので、登録・公表にご賛同いただける場合は下記宛ご連絡くださいますようお願いいたします。

記

連絡先：北海道医師会事業第二課

TEL 011-231-1725 FAX 011-252-3233

E-mail：kenkou@office.hokkaido.med.or.jp